



神楽を続けたい



久慈市認定地域クラブ 「夏井神楽クラブ」始動

1354年から夏井町に伝わる伝統芸能「夏井大梵天神楽(岩手県指定無形民俗文化財)」。

その伝統を次世代へ受け継ぐため、2018年から夏井中学校で継承活動に取り組んできた夏井町。

しかし令和8年4月の中学校統合で大きな転機を迎え、閉校前に校長先生(当時「木村亮」校長)は「これから神楽を続けたい人はいますか」と生徒に問い、多くの子どもが「続けたい」と答えた。

子どもたちの思いを受け、令和8年2月に久慈市内では伝統芸能として初の認定地域クラブ「夏井神楽クラブ」を発足(部員15名、代表「田中貴章」)、3月に地元でお披露目、7月4日(土)に夏井市民センターで活動開始式が行われた。

式には夏井大梵天神楽保存会(会長「播磨孝則」)のほか、教育委員会、関係小中学校の校長、保護者ら約30人が集まり、クラブに所属する久慈中の2、3年生8人が保存会の協力のもと御神楽舞を披露し、活動をスタート。

リーダーの高橋日依(ひより)さんは、「学校の閉校で、最初は神楽の活動が終わると考えていたので悲しかったが、続けられて楽しい。今

後は先輩たちの伝統を引き継いで、普段の生活から地域の方々に神楽の存在を広めて知ってもらいたい」と取材に応じた。

クラブは現在メンバーを募集しており、中学生以外でも参加は可能とのこと。

今後は、地域行事などのほか、久慈秋まつりへの出演も予定し、現在練習に励んでいる。

クラブへの問合せは田中代表(080-11008-8294)まで。



取材に答える高橋日依(久慈中3年)さん